

石造観音六面幢



〔指定年月日〕平成六年一月九日
〔種別〕有形文化財（彫刻）
〔名称〕石造観音六面幢
〔点数〕一基
〔所有者等〕西方寺
〔所在地等〕梅里一―四―五六

石造観音六面幢

総高二六二cm、凝灰岩で造られた笠部・幢部・基礎からなる単制六面幢で、笠にワラビ手の飾りの付いた比較的類例の少ないものである。また、大半の六面幢が六地藏を配しているのに対し、六観音を浮き彫りにしている点も特色をなしている。普通六観音は、地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道の六道に関連付けて、千手観音・聖観音・馬頭観音・一面観音・准提観音・如意輪観音とされているが、この六面幢では准提観音の代わりに不空羼索観音が加えられている。

造立年代は承応二年（一六五三）で、造立者単誉は西方寺第八世住職と思われる。この六面幢で注目すべき点の一つは、聖観音像の下に造立者単誉が「此一昧者、庚申為供養」と記し、その下に講中と思われる九名の結衆者の名を連ねていることである。

これは念仏供養の為に造立された六観音の一体が庚申供養の為とされる珍しい例であり、その主尊に聖観音があてられ、庚申信仰の主尊が、青面金剛に定まる以前の姿を留めるものである。

また、僧侶の指導の下に講集団が組織されていたことわかり、江戸時代初期の庚申信仰を示す貴重な資料である。

【文化財所在地】

